

平成31年度

第1回進路説明会

日 時 令和元年6月24日（月）13:45～15:00

場 所 本校 体育館

内 容 本年度の進路指導について

- | | |
|------------------------------|---------|
| (1)平成30年度卒業生の進路について | p 1～2 |
| (2)進路を決めるにあたって | p 3～6 |
| (3)受検可能な公立高校 | p 7～11 |
| (4)第2学区公立高校
オープンハイスクール等一覧 | p 12～29 |



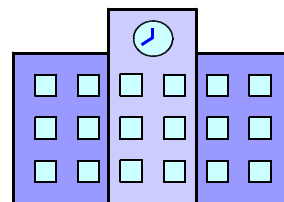
伊丹市立西中学校

お名前（ ）

②「進路を決めるにあたって」

1. 就職を希望する人は・・・

中卒の求人は、ほとんどありません。就職希望者があれば、ハローワーク（学卒は尼崎の管轄）が、事業所を回って求人を取りつけるという状況です。求められる人材は、「遅刻や早退、欠席がなく、真面目に中学校生活を送っている生徒」です。事業所によっては、定時制高校に通うことを条件にしているところもあります。厳しい状況のためほとんどの生徒が高校に進学していますが、就職を強く希望される方がありましたらすぐにご相談ください。



2. いろいろな学校

大きく分けて、次のように分けることができます。

(1) 全日制高等学校

私立と公立（県立、市立など）があり、中学校と同じように、朝、登校して6～8時間の授業を受け、（部活動をして）夕方下校します。

5教科を中心に勉強する普通科の他、工業科や商業科のような『職業教育を主とする学科』、体育科、音楽科、美術科などの『特色ある専門学科』、豊富な選択教科を選べる『総合学科』などがあります。また、普通科の中にも、特色のある類型やコースを設けている学校や単位制の学校もあります。

私立では、普通科の中に、特別進学コースや国際コース、スポーツコースなどを設けている学校がたくさんあります。

(2) 定時制高校・多部制高校（公立）

夕方6時前に登校して4時間程度の授業を受け、（部活動をして）9～10時頃下校します。昼間は働いて、夜間に勉強したい人に向いています。

多部制といって、1部（午前）、2部（午後）、3部（夜間）に分かれている学校もあります。近隣では、県立阪神昆陽高等学校（3部制6学級）があります。

どちらの課程も基本的に4年で卒業ですが、3修生といって3年間で卒業するカリキュラムを設置している学校が多いです。

(3) その他の国公立学校

5年制の工業高等専門学校（4年制大学に編入できる）や国立教育大学附属高校、1年制の「山の学校」、ハローワークの紹介による職業訓練校などがあります。

(4) 通信制高校

テキストをもとに、家でレポートを作成して学校に送り、添削してもらうことによって学び、単位を取得する学校です。体育などの実技教科は、スクーリングといって、定められた学校で、主に、土日に受講します。公立と私立があり、私立の通信制高校には、学校がテキストを取り寄せ、塾のように講師の先生が学習の手助けをしてくれる学校もあります。

(5) 高等専修学校

美容や調理、ビジネスなどを専門に学ぶ学校です。通信制高校と連携して、時間割を組み、3年間で色々な資格と高校卒業の資格を取得できるようになっている学校がほとんどです。

3. オープン・ハイスクール、学校説明会

早い学校では、5月から始まっていますが、多くは、夏休みと10月に集中して行われます。授業体験や部活動見学のできる学校もあり、高校について知るチャンスなので、積極的に参加してください。

基本的には保護者に付き添いをお願いしています。学校独自のカリキュラムのことや、年間経費についても確認していただけます。お忙しいとは思いますが保護者の方も、できる限り参加して頂ければと思います。

なお、オープンハイスクールに参加する場合は、学校を通しての申し込み、個人での申し込み、ともに指定された申し込み用紙を、担任にご提出ください。保護者サインと押印をお願いしております。

4. 受験（受検）できる学校

(1) 私立高校

今年度は、2月10日(11日)に入学試験が行われます。京阪神の高校の入試日は統一されているので、1校しか受験できません。

試験教科は、主に5科目ですが、3科目(国・数・英)や2科目選択の学校もあり、多くの学校で、面接試験が実施されます。

合格すれば、すぐに入学手続きをする「**専願**」と、公立高校も受検し、公立高校が不合格になった場合に入学手続きをする「**併願**」の2つの受験型があります。

ここ数年、公立高校受検者の中で、私学を併願する人が9割を越えている状況です。今年度も学区拡大により公立高校への進学が厳しくなることが予想されますので、公立高校が不合格の場合は実際に併願校に入学することになります。納得して入学できるよう併願校も真剣に考えてください。

(2) 公立高校(県立、市立など) P.12～参照(進路学習資料)

→受験可能な学校が学区制の変更により増加

① 推薦

例年、2月初旬に願書を提出し、今年度は2月17日に検査があります。**普通科**では、「総合ヒューマン類型(伊丹西)」「GLIS類型(県伊丹)」などの**特色選抜(自己推薦)**[18校]と「GC(グローバル・コミュニケーション)コース(市伊丹)」などの**普通科コース**(7校8コース)があります。

総合学科や普通科単位制は定員の半数が推薦(中学校推薦)による募集です。

工業科や商業科、体育科など専門学科でも定員の半分または全部を推薦で募集します。

検査の内容は、小論文や面接試験、適性検査・実技検査など、学校や学科によって様々ですが、調査書の成績が合否に大きく関わります。合格すれば、必ず入学することが条件になりますので、他校を受けることはできません。出願後の志願変更もできません。

② 学力検査

例年、2月下旬に願書を提出し、今年度は3月12日に学力検査があります。**普通科または総合学科**では、第2学区の34校の中から「第1志望校」「第2志望校」を選んで受検することができます(複数志願制)。学力検査の内容は、国語・数学・社会・理科・英語の5教科で、調査書の成績(9教科の5段階)を点数化したものと合計して、合否が決められます。その際、第2学区の複数志願制では、第1志望校には20点が加算されます。

工業科、商業科などの専門学科も定員の半数を学力検査で受検することができます。検査の

内容や合否の判定方法は複数志願制とほぼ同じですが、受検できるのは1校です。

定時制も同じ問題で、検査日時も同じです。

多部制の学校では、受検日がⅠ期とⅡ期に分けられ、Ⅰ期試験は、作文と面接のみとなり、推薦入試と同じ日程で行われます。Ⅱ期試験は学力検査と面接で判定されます。

<複数志願選抜>

公立全日制『普通科』『普通科・単位制』『総合学科』で、「第2学区」の34校で行われます。この中で、以下の2つの受検の仕方があります。

① 第1志望のみ

② 第1志望+第2志望

*「その他校」はありません

第1志望校の合否判定は、「内申点+試験の得点」の500点に「20点」の加算点が加えられた形で合否判定が行われます。

第2志望校の合否判定は、「内申点+試験の得点」の500点で行われます。

第2希望についてのみ、志願変更が可能です。

なお、合格した場合は、第2志望であっても必ず入学手続きを行わなければいけません。

<単独選抜>

それ以外の学校（工業科、商業科、多部制、定時制など）については、複数志願選抜は行われず、各校ごとに合否判定が行われます。第2志望などありません。

(3) 工業高等専門学校

工業高等専門学校にも、「推薦」と「学力」があり、高校入試とは検査日が異なりますが、出願や発表の日が重なることがあるので、優先順位をつけるなど注意が必要です。国立大阪教育大附属も同様です。

(4) 高等専修学校・私立通信制高校

早い学校では、12月に推薦入試が始まり、日時も教科も学校によって異なります。私立高校と同様に他校との「併願」ができる学校もあります。

5. 合否の基準

- ・おもに1学期と2学期の成績を総合して、学習評定(9科45点満点)を出します。
- ・公立推薦では、この学習評定と、当日の小論文や面接試験、実技検査などの結果と調査書を総合して合否を決めます。
- ・公立学力検査では、学習評定を250点満点にして、当日の5教科(国・社・数・理・英)の学力検査の点数(250点満点)と合わせて500点満点としたものを主とし、調査書の諸記録を参考にして合否の判断材料にしています。

学習評定 (計250点)	学力検査の得点 (計250点)
5教科(国、社、数、理、英)の5段評定 $5 \text{ 段} \times 5 \text{ 教科} \times \underline{4} = 100 \text{ 点}$	5教科(国、社、数、理、英) $100 \text{ 点} \times 5 \text{ 教科} \div \underline{2} = 250 \text{ 点}$
4教科(音、美、技家、体)の5段評定 $5 \text{ 段} \times 4 \text{ 教科} \times \underline{7.5} = 150 \text{ 点}$	※学習評定では <u>技能教科が重視</u> されます。

6. 受験(受検)校を決めるまで

中学校の「進路説明会」や進路学習資料、学校紹介パンフレット、オープン・ハイスクールなどで得た情報をもとに、行きたい学校を絞っていきます。

7月、11月、12月に実施される「三者懇談会」で、通知表の5段階評定や実力テストの結果などをもとに、希望する学校の可否の可能性を検討し、12月中に受験(受検)校を決めます。

1月には、取り寄せた私立や公立(推薦)の願書や面接調査票などを書いて、志望校に提出します(出願)。2月に受験(受検)をし、その結果によっては、公立(学力)の願書を提出することになります。

3月の公立学力検査の結果によっては、私立併願校への入学手続きをします。

私立高校の中には、通常の入試の後に「1.5次募集」、公立学力検査の後に「2次募集」をする学校もあります。しかし、募集をしている学校は限られており、希望通りの学校が見つかるとは限りません。また、募集定員が少ない上に合格水準も1次試験より高くなっています。

7. 特別な相談について

「三者懇談会」では時間が足りない場合や、急ぎの相談がありましたら、学級担任や進路担当にご連絡ください。

特に、転居など家庭の状況が変わる場合には早めにご連絡ください。

(事前に特別な手続きが必要になる場合もあります)

8. 進路希望調査について

進路の決定には、多くの学校の3年生の情報が必要です。進路希望の調査は、公立高校の募集定員にもかかわる重要な調査です。何度か進路希望調査をとらせて頂きますので、ご協力下さい。

9. 高等学校の偏差値について

塾や業者が実施している模擬試験などによる「偏差値」は、受験者数も限られていますので参考程度に考えてください。特に公立では、「中学校の学習評定」が大きく影響します。

私立では、出欠の記録・部活動等の実績なども加味される場合があります。「偏差値」は大まかな学力をはかる参考資料とし、それだけで決めつけてしまわないようにしてください。

10. より良い進路選択のため

日頃の学校生活をしっかり過ごせるよう、身だしなみや提出物などのようすを気にして頂き、適切な声かけをお願いします。何より、落ち着いた生活が基盤となります。

また、進路に関する情報収集が大切ですので、配布物の確認をお願いします。学校説明会などにはできる限り参加して、親子でよく話し合ってください。

参考資料：進路学習資料(6月19日配布)、学年通信、高校等パンフレット・学校案内など

